

# 医療を通じて、愛を世界へ。

日本キリスト教海外医療協力会（JOCS）は、日本がアジアの人々に対して犯した戦争への深い反省に立ち、和解と平和の実現を願って1960年に設立されました。イエス・キリストの教えに従い、困難の中にある人々の健康といのちをまもり、人々と苦悩・喜びを分かちあうことを使命としています。JOCSは、国や宗教の違いをこえて共に生きる働きを通じて、「平和を実現するもの」であり続けたいと願っています。

## mtc JOCSの保健医療協力



母子保健の向上に取り組む助産師(タンザニア)

### ワーカー派遣

クリスチャンの医師や看護師など保健医療従事者（ワーカー）を、アジア・アフリカの国々に派遣しています。ワーカーは地域の人々とともに生き、その地域の保健医療従事者を育てています。地域の人々が自らの手で健康をまもっていけるようになることをめざしています。

現在は、バングラデシュに岩本直美ワーカー（看護師）、タンザニアに雨宮春子ワーカー（助産師）を派遣しています。



JOCS奨学金で学んだ看護師(ネパール)

### 奨学金支援

保健医療サービスが十分ではない地域で、貧しい人々や弱い立場におかれた人々のために働きたいと願う保健医療従事者を、奨学金で支援しています。地元のために働きたいと願う人を奨学生として選ぶことで、その地域の保健医療レベルの向上に協力しています。2021年度は、7カ国70名の奨学生を支援しました。



障がいのある子どもの療育活動(ケニア)

### 協働プロジェクト

現地の団体と協働して、保健医療に関するプロジェクトをおこなっています。協働してプロジェクトをおこなうことで、現地の人々の力を活かし、より大きな効果を得ることができます。JOCSは活動資金の提供や専門家の派遣をとおして協力しています。

現在はタンザニアで母子保健に関するプロジェクトを、ケニアで障がいのある子どものための療育事業をおこなっています。